

2025年度 ファミリーウォーキング③

「兵庫七福神めぐり」 約 7.5 km (一般向)

1月11日(日) 午前9時30分スタート

集合場所：駅南公園(JR/兵庫駅)

駅南公園 ⇒ ①福海寺 ⇒ ②柳原蛭子神社 ⇒ ③柳原天神社 ⇒ ④能福寺 ⇒
⑤真光寺 ⇒ ⑥薬仙寺 ⇒ ⑦和田神社 ⇒ 兵庫津ミュージアム ⇒ 兵庫城跡 ⇒
イオンモール神戸南 ⇒ はねっこ広場 ⇒ JR/神戸駅(ゴール)

昼食休憩はありません

※ ゴール時間：12時50分頃 (リーダー：吉原 康之)



ホームページ

ウォーキングマナー五ヶ条

1. やあ！おはよう 明るい挨拶 さわやかに
2. 信号をあわてず あせらず 待つ余裕
3. ひろがるな！ 参加者だけの道じゃない
4. 自分のゴミ 自分の責任持ち帰り
5. 歩かせて いただく土地に感謝して・・・

スタート

集合

ゴール



免責事項

事故には各自で十分に気をつけて下さい。
当協会では応急処置及び受付時に加入した
傷害保険以外の責には応じかねます。

歩行時の緊急時の連絡先
090-1961-9730
(公財)神戸市スポーツ協会
神戸ウォーキング協会
神戸市中央区吾妻通4-1-6
神戸市生涯学習支援センター内
Tel&Fax 078-251-0114



約1000m

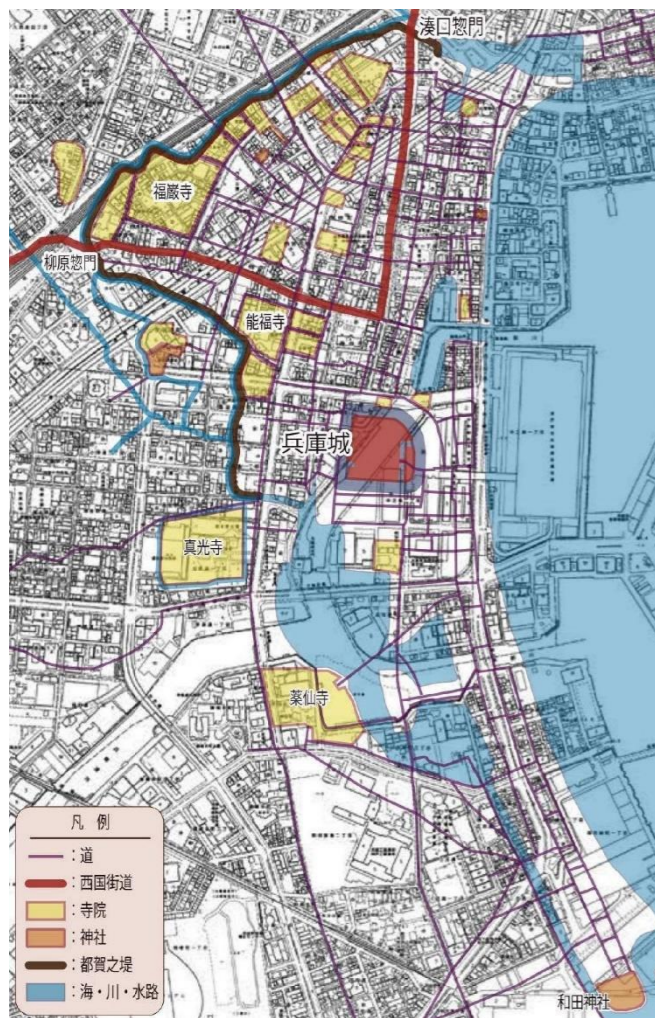
西国街道と兵庫津の柳原惣門（やなぎはらそうもん）

「十日戎」で多くの人で賑わう兵庫の柳原神社ですが、その北東側に面した通りは江戸時代、京から九州までを結んだ街道である「西国街道」と呼ばれていた道です。当時は多くの人々や物資そして参勤交代の大名行列が通った道で、今で言えば国道2号線にあたる最重要街道でした。今日のウォーキングルートのほとんどは江戸時代、「兵庫津」と呼ばれた港を中心とした大きな町があったところ巡るルートですが、柳原神社から先に兵庫の町並みが広がっていました。

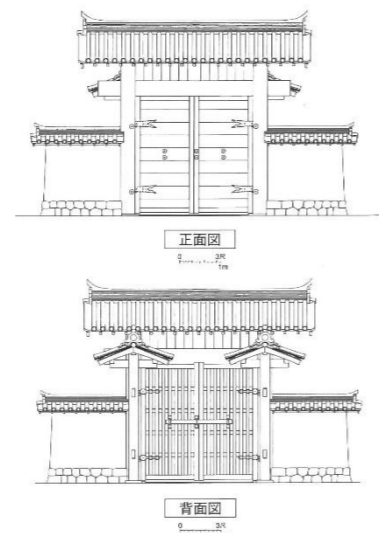
西国街道はこの兵庫の町中を通っており兵庫は港町であるとともに宿場町でもありました。西国街道が町に入る出入り口には治安のために大きな門が設けられ、東側の門は「湊町惣門」、西側の門は「柳原惣門」と呼ばれており、当時の絵図と現在の地図を比べてみると、ちょうど柳原神社の横に「柳原惣門」があったことがわかります。

平成14年に神社の境内で発掘調査を行い、その柳原惣門の柱を立てるための穴が見つかりました。柱穴の大きさや、絵図や他地域に今も残っている同時代の門を参考に柳原惣門を想定復元したのが下の図です。

皆様もこの門をくぐって江戸時代の兵庫の町に入っていく姿を想像してみてください。



現在の地図に江戸時代（元禄期）の地図を重ねたもの



柳原惣門復元図



柳原惣門のイメージ

幻の兵庫城

神戸港の歴史は、奈良時代東大寺の大仏建立に尽力した僧行基が造った「大和田船息」に始まり、平清盛による修復を経て、室町時代、金閣寺を造った足利義満による日明貿易の拠点港として、また瀬戸内海運の最重要港として、大いに栄えていました。

戦国時代の1580（天正8）年には、織田信長に反旗を翻した有岡（伊丹）城主荒木村重方の城であった花熊城攻めの際、織田軍によって町が焼かれてしまいました。花熊城落城後、花熊攻めに功のあった池田恒興によって町の中に「兵庫城」が築かれ、また町全体を囲む堀と土塁も築かれ、織田軍西国侵攻の拠点となりました。

江戸時代には兵庫城は尼崎藩の「兵庫陣屋」となり、その後幕府直轄領となってからは「勤番所」が置かれました。江戸時代を通じて城の堀は徐々に埋められ、その範囲も狭くなっていきました。

明治時代に入り廃藩置県となり、最初の兵庫県庁が置かれたのがこの兵庫勤番所の建物でした。しかし1874（明治7）年新川運河が開削され、兵庫城の大半は削られ、残った城跡の地も町屋から中央卸売市場となり、その姿はすっかり忘れ去られていました。

ところが、市場跡地（今のイオンモール兵庫南）で2012（平成24）～2017（平成29）年に発掘調査が行われ、幻だった城の堀や石垣とともに大量の出土品が見つかり、織田軍に築かれたこの城は当時最新の技術によって築かれていたことなどが新たに判明しました。現在はそのほとんどは建物の下で、再び静かに眠っています。

兵庫城年表

年号	西暦	出来事
天正8	1580	池田恒興が築城。荒木村重の花熊城を解体し、その材料を使用したとの記録がある（『花熊落城記』1732年）。
天正11	1583	池田恒興、美濃へ転封。兵庫と尼崎が三好（豊臣）秀次に与えられる。
天正13	1585	羽柴秀吉の直轄領となる。片桐且元が代官となり、「片桐陣屋」と呼ばれる。
慶長元	1596	伏見地震。兵庫津も被害を受ける。
元和3	1617	尼崎藩領となる。「兵庫陣屋」がおかれ、奉行が駐在する。
元禄9	1696	『摂州八部郡福原庄兵庫津絵図』が描かれる。「兵庫陣屋」は、「御屋敷」と表現される。
明和6	1769	幕府直轄領となり、「勤番所」が置かれる。上知（あげち）以降、堀が埋められ町屋となる。
文久2	1862	『兵庫津之圖』が描かれる。「御番所」の周りも町屋となっている。
明治元	1868	兵庫県庁が置かれる。4ヶ月で移転する。
明治7	1874	新川運河開削により、中心部の大半が削られる。



発掘調査で姿を現した兵庫城の堀と石垣